

# 中間とりまとめ以降の活動内容と 最終とりまとめについて

---

四国地方整備局 高松港湾・空港整備事務所  
坂出市

# 坂出ニューポートプラン(計画の目的・検討の進め方)

## ■目的・位置づけ

- 坂出港は、瀬戸内海における海上交通の要衝として栄え、香川県の工業と坂出市の発展に大きく貢献。一方で、サプライチェーンのグローバル化や国内生産拠点の統廃合、我が国へのクルーズ船寄港の拡大など坂出港を取り巻く環境が大きく変化。
- 坂出ニューポートプランは、坂出港の競争力を向上させるとともに、地域住民やクルーズ旅客等が快適で利用しやすい港づくりを推進するために、坂出港の課題や今後のあり方について検討し、今後10年間に取り組むべき方向性を取りまとめたもの。

## ■検討会議 構成委員

**有識者**

- ・(一財)みなと総合研究財団 理事長
- ・香川大学経済学部 教授
- ・香川高等専門学校 准教授

**坂出港関係者**

- ・四国経済連合会
- ・香川県観光協会
- ・香川県倉庫協会
- ・(一社)香川県トラック協会
- ・坂出商工会議所
- ・坂出港振興協会
- ・坂出港運協会
- ・坂出港輸入食糧誘致協議会
- ・香廬倶楽部
- ・番の州六社会

**行政機関**

- ・坂出海上保安署
- ・四国運輸局
- ・四国経済産業局
- ・香川県【事務局】
- ・四国地方整備局
- ・坂出市

## ■坂出ニューポートプランの進め方・スケジュール

平成29年8月3日 第1回検討会議

坂出港の利用促進に向けた現状と課題の整理

平成29年12月25日 第2回検討会議

第1回検討会議での意見を踏まえた課題への対応策の検討

「坂出ニューポートプラン(素案)の概要」の提示

平成30年12月3日 第3回検討会議

第2回検討会議での意見を踏まえた「中間とりまとめ(案)」の提示

平成31年1月10日 坂出ニューポートプラン(中間とりまとめ)の公表

**ニューポートプラン運動**  
企業と連携して取り組み進めていくために、呼び掛け・意見交換等を実施

**アンケート調査**  
定期RORO航路等の具体的なニーズ把握のため、香川県内企業にアンケート調査を実施

令和元年6月25日 第4回検討会議

坂出ニューポートプラン(初版)を取りまとめる

# 中間とりまとめ以降の活動内容について

- 平成30年11月に実施した定期RORO船に係る具体的なニーズ把握のためのアンケート調査の結果を基に、ヒアリングを実施し、より詳しい実需の把握に努めた。
- また、平成31年1月10日の中間とりまとめの公表以降、企業と連携して取組みを進めていくことを目的に、県内の製造業及び運送業に対し、呼び掛け・意見交換等を行った。

## 坂出ニューポートプラン（中間とりまとめ）での取組の方向性

①坂出港の物流機能強化に資する  
新たな定期航路の誘致

②物流・生産拠点としての  
更なる港湾の機能強化に向けたふ頭の再編

③坂出港が有する資源を活用した  
賑わい・交流拠点の創出

④坂出港及び瀬戸内海の魅力を生かした  
クルーズ船誘致

⑤四国の防災拠点港としての機能強化

⑥臨海部を有効活用した港湾空間の機能向上

### アンケート調査

定期RORO航路等の具体的なニーズ把握のため、香川県内企業にアンケート調査を実施、結果を公表

配布：1,054社

回答：200社

### ニューポートプラン運動

企業と連携して取組みを進めていくために、呼び掛け・意見交換等を実施(H31.1～H31.4の4ヶ月間)

①の関連：21社

②の関連：6社

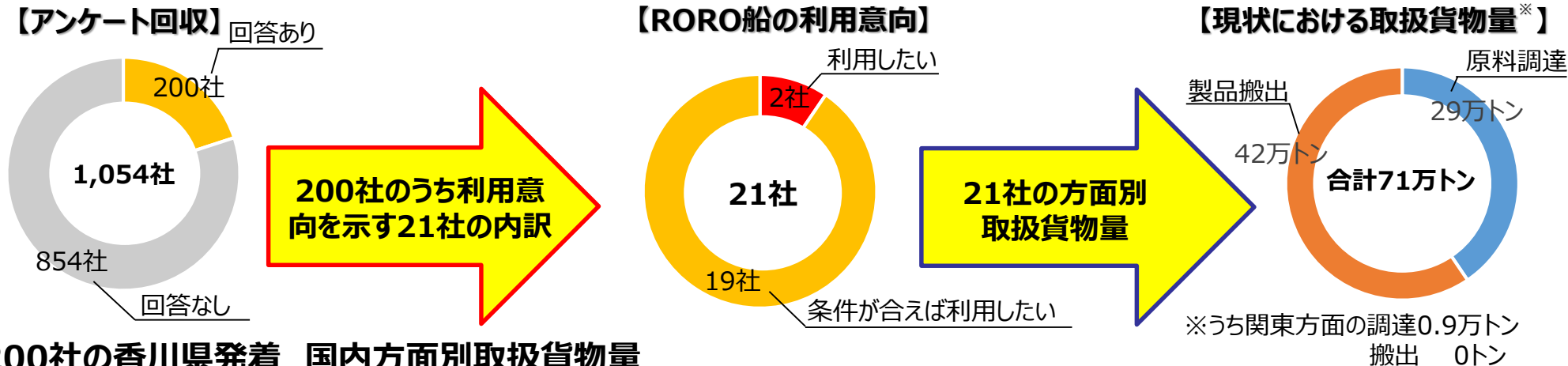
④の関連：2社

上記のほか、⑤四国の防災拠点港としての機能強化において、「坂出港事業継続計画（坂出港BCP）」を策定し、各種訓練を実施している。

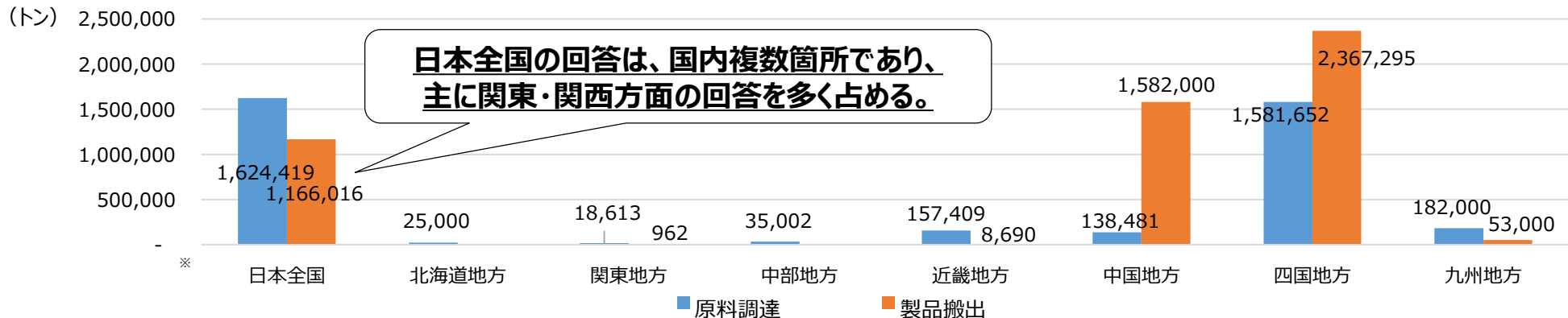
# ① RORO船ニーズアンケートの結果(方面別の貨物量)

- RORO船利用意向に関するアンケート調査において、香川県内の製造業、運輸業の1,054社に配布したところ、200社から回答を得た。
- RORO船利用に意向を示した21社の取扱貨物量は71万トンであり、九州、中国及び四国地方との間で輸送される貨物が大宗を占めていた。
- また、回答を得た200社の香川県発着 国内方面別の貨物量を見てみると「日本全国」の割合が多く、この中に関東方面の貨物が潜在している状況であった。

## ■ 坂出港におけるRORO船利用の意向と取扱貨物量



## ■ 200社の香川県発着 国内方面別取扱貨物量



# ① 新たな定期航路誘致( 関東方面の貨物量の状況 )

○アンケート回答のあった200社を対象としてヒアリングを行ったところ、関東方面との定期RORO船航路に関心がある11社から20フィートコンテナに換算して一日あたり63.5台/日の貨物量が確認できた。

## ■ 坂出港における関東方面との定期RORO船に関心のある企業の利用意向と貨物量

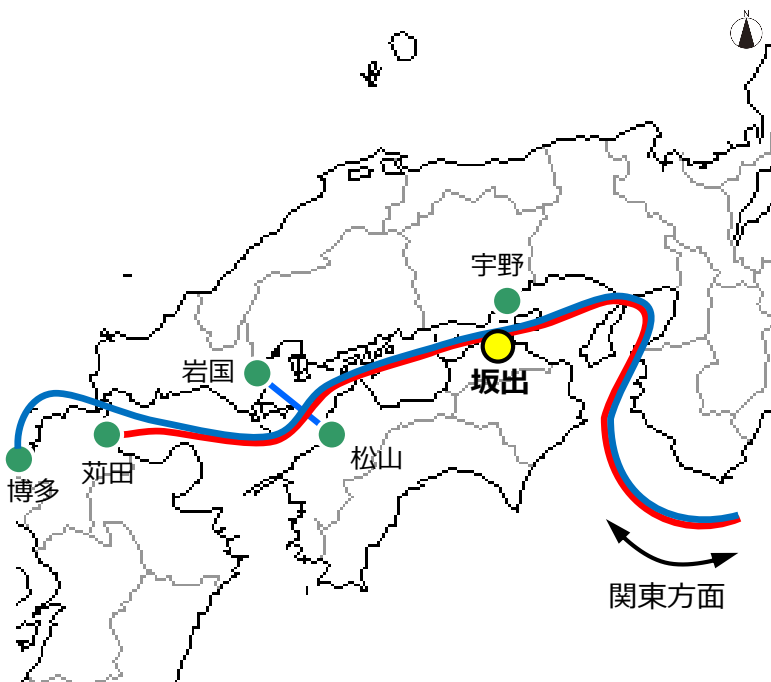
大分類	利用意向
軽工業品	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物流は運送会社に任せているため、経路指定はしていない。</li> <li>・出荷は関東方面が一番多いので、<u>関東へ毎日就航が望まれる</u>。また、RORO船の利用については陸上輸送とのトータルコストを比較して決めたい。</li> <li>・調達は北海道地方が最も多いため、<u>苫小牧港から高松港or坂出港への直行便が望まれる</u>。</li> <li>・出荷は関東方面が一番多いので、関東方面の着岸場所と発着時間により利用を検討したい。</li> <li>・従前からトラックによる陸上輸送がメインであり、陸送は手続きが簡素的。海上輸送においても、「工場→港、港→港、港→お客様」に係る手続きの手間が省け、トータルコストで陸送に勝れば検討したい。</li> </ul>
化学工業品	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内搬出について、海上輸送ルートを模索中。</li> <li>・自社貨物は小ロットなので、共同配送・共同倉庫を考えている他社と共に実施し、物流効率化を図りたい。</li> <li>・リードタイムとコストの面で陸上輸送に勝れば検討したい。</li> </ul>
林産品	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リードタイムが重要であるため、<u>毎日就航</u>を望む。また、陸上輸送に比べてコストで優位であれば検討したい。</li> <li>・海上輸送の場合、天候によって就航ダイヤへの影響が懸念される。</li> </ul>
運送業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>ダイヤが重要</u>であり、<u>朝一に東京港に着き、夕方便で坂出港に戻れるダイヤ</u>が望ましい。</li> <li>・トラックドライバーの不足と高齢化から、長距離輸送においては益々難しくなっている。</li> <li>・関東方面の港は、高速道路の交通アクセスの良さから<u>横須賀港を希望</u>する。</li> <li>・ダイヤは、朝一に横須賀港に到着し、夕方に坂出港に戻れる便を望む。</li> </ul>

貨物量	原料調達	製品搬出	合計
1日あたり	14.5台	49台	63.5台
1週あたり	101.5台	343台	444.5台

# ① 既存定期RORO船の誘致イメージ

- 定期航路事業者によると、既存定期航路を活用した坂出港への寄港が最も現実的とのこと。
- 坂出港沖を航行する関東方面への既存定期RORO船 5 航路のうち、代表 2 航路について、坂出港へ寄港する場合を試算した。（既存寄港地の発着時間は固定）
- 更なる貨物需要の発掘からベースカーゴを確定させ、既存航路を就航させる船社に坂出港寄港に向けたポートセールスを実施する。

## ■ RORO船 航路図



【既存定期RORO船航路】

- A社 [東京 - (岩国・松山) - 博多]
- B社 [東京 - (宇野) - 苅田]

## ■ 坂出港へ寄港した場合の発着ダイヤ（案）

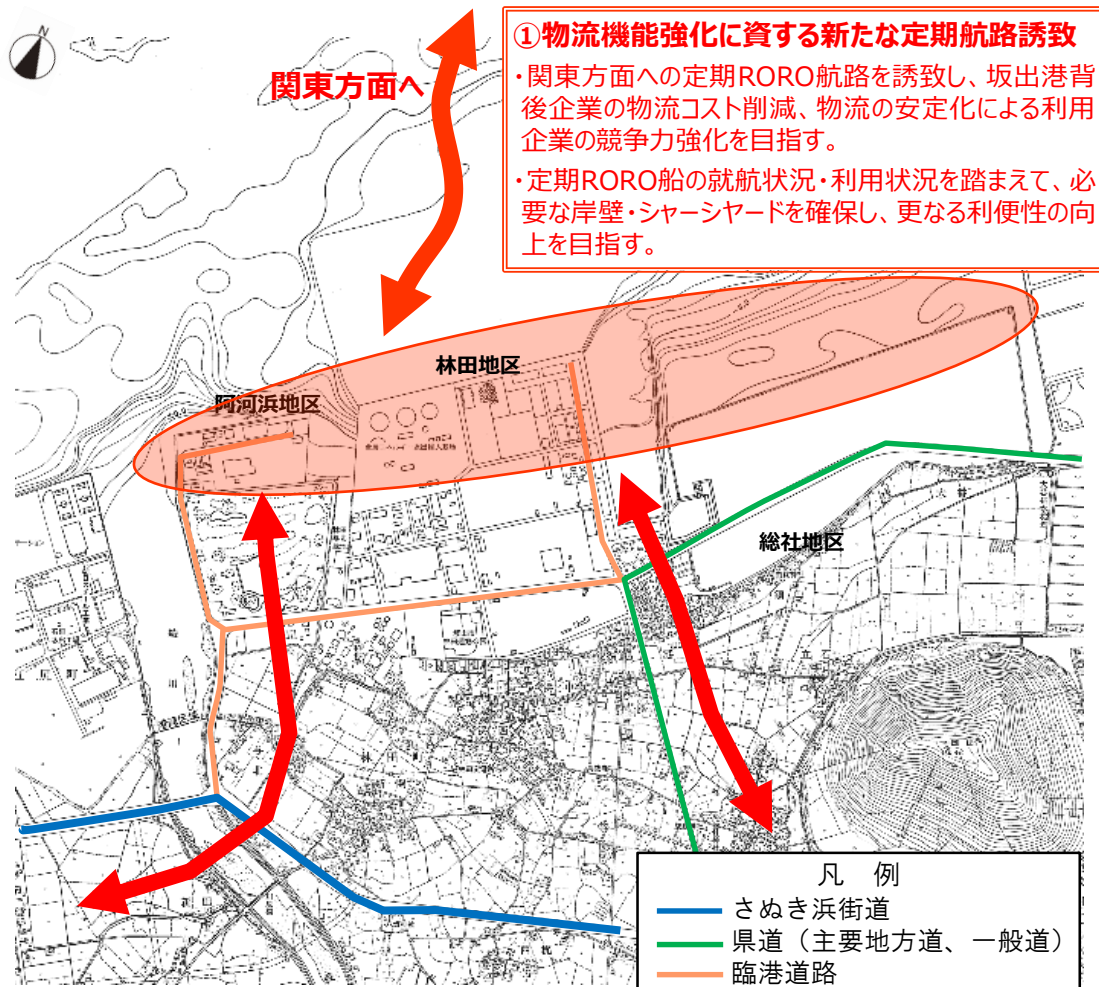
		積載能力	発着ダイヤ				坂出港 荷役時間
A社	上り	週 3 便	博多	岩国	坂出	東京	1時間 40分
		12m <sup>3</sup> あたり 160 乗用車 251 旅客 12 冷凍電源 110	(月・金) 18:00 発 →	(火・土) 2:40 着 5:00 発 →	(火・土) 9:20 着 11:00 発 →	(水・月) 5:50 着	
	下り	博多	松山	坂出			2時間 20分
		(水) 18:00 発 →	(木) 2:10 5:20 発 →	(木) 8:40 11:00 発 →	(金) 5:50		
			(水・金・月) 6:00 着	←	(火・木・土) 19:00 発 16:00 着 ←	(月・水・金) 21:00 発	3時間
B社	上り	週 6 便	苅田	坂出	宇野	東京	30分
		160 乗用車 220 旅客 12 冷凍電源 80	(火～金・日) 4:30 発 →	(火～金・日) 11:20 着 11:50 発	→	(月・水～土) 6:00 着	
	(土) 4:30 発 →	(土) 11:20 着 12:30 発 →	(土) 13:30 着 16:30 発 →	(日) 15:30 着			
			(火～土) 22:30 着 ←	(火～土) 15:40 発 15:10 着	←	(月～土) 21:00 発	30分



# ① 新たな定期航路誘致に向けた今後の取組

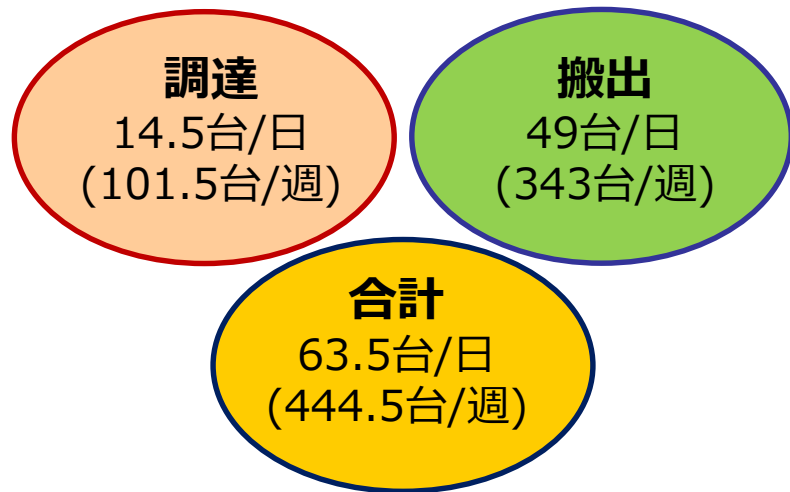
- 関東方面との貨物量は、20フィートコンテナ換算で、調達が14.5台/日、搬出が49台/日、計63.5台/日であった。
- ヒアリングを通じて新たな荷主を紹介頂く機会もあり、引き続き需要の掘り起こしを進めていく。また、荷主に加えて運送業についてもヒアリングを進め、集荷に取り組む。
- その他、航路誘致に向けて船社へのアプローチを行い、更に試験運航の事例等を収集し検討を進めていく。

## ■ 坂出港における定期RORO船航路イメージ



## ■ 中間とりまとめ以降の取組

### ヒアリング結果 (関東方面との貨物量)



## ■ 今後の取組と方向性

- ・需要を整理し船社へアプローチ
- ・引き続き企業ヒアリングでの需要の掘り起こし
- ・船社・荷主・運送業それぞれをマッチングすべく、意見交換会を開催

## ② 港湾の機能強化に向けたふ頭再編についての今後の取組

### (老朽化対策)

令和2年度までに維持管理計画を作成し、優先度を踏まえた更新・修繕等の老朽化対策を進める。なお、老朽化が著しく利用頻度の高い施設については優先して対応を検討していく。※下図の①,②,③の施設については現在工事実施中。

### (港湾機能の強化に向けたふ頭の再編)

林田地区岸壁の利用の逼迫や船舶の大型化、土地需要の増加へ対応するため、総社地区において大型貨物船やPCC船等に対応した係留施設、ふ頭用地等を計画しふ頭の再編を進めていく。その際、保管施設(サイロ等)の利用状況を考慮すると共に、穀物船以外の大型貨物船の需要について掘り起こしを行っていく。

### ■ ふ頭再編機能に関する取組

### ■ 中間とりまとめ以降の取組

#### 坂出港の利用等に関する意見等

- ・林田地区における係留施設の過密利用の解消(自動車専用船の滞船の解消)
- ・港湾背後の保管施設(サイロ等)の利用計画を考慮したふ頭再編
- ・穀物運搬船以外の大型貨物船の需要の掘り起こし
- ・既存施設の老朽化状況を踏まえた機能集約

### ■ 今後の取組の方向性

港湾管理者として長期構想委員会を設立し港湾計画の改訂を目指す。

物流・生産拠点としての更なる  
港湾の機能強化に向けたふ頭の再編  
・大水深岸壁及びふ頭用地の整備と合わせて、  
既存施設の機能集約を視野に入れたふ頭再編  
を行い、更なる機能強化を目指す。

#### 物流・生産拠点としての更なる 港湾の機能強化に向けたふ頭の再編 (港湾施設の老朽化対策)

- ・令和2年までに維持管理計画を策定し、適切な点検・診断等を実施するとともに、優先度を踏まえて更新・修繕等の老朽化対策を進める。

③林田D号岸壁

①中央ふ頭2号岸壁

②中央埠頭浮さん橋

西ふ頭地区

中央ふ頭地区

東浜地区

東運河地区

阿河浜地区

林田地区

総社地区

松ヶ浦地区

#### 凡例

- さぬき浜街道
- 県道(主要地方道、一般道)
- 臨港道路



## ② 総社地区における係留施設等の計画のイメージ

○船舶の大型化、林田地区岸壁の利用の逼迫及び背後の土地需要等に対応するため、総社地区を念頭に、大水深岸壁及び背後用地の整備と併せて、既存施設の機能集約を視野に入れたふ頭の再編に向け、総社地区の港湾計画を検討する。

### ■ 総社地区のイメージ案

- ・ RORO船の利用岸壁・・・水深7.5m以上を計画
- ・ PCC船の利用岸壁・・・水深7.5m以上を計画
- ・ 大型貨物船の利用岸壁・・・水深12m以上を計画
- ・ 施設の老朽化の進展を踏まて、港湾機能を再編・集約
- ・ 大型クルーズ船の受入れ

(需要を見据え今後計画)



# ③ 西運河地区における賑わい空間の創出に向けた今後の取組

○坂出市街地近傍の西運河地区等のウォーターフロントにおいて、賑わい・交流拠点を形成するにあたり、市民がみなとを身近に感じ、憩うことができ、また、観光客等呼び込むことが出来る空間の創出に官民が連携して取組む。

## ■ 港湾空間の賑わい活用例

みなとオアシス八幡浜みなと  
(愛媛県八幡浜市)



フェリー乗り場に近接した賑わい空間

青森駅前ビーチ  
(青森県青森市)



駅及び商店街に近接した  
親水・生物多様性空間

高松港北浜アリー  
(香川県高松市)



既存施設を活用した空間

尾道U2  
(広島県尾道市)



既存施設を活用した空間

## ■ 今後の取組と方向性

賑わい空間創出検討ワーキング(仮称)を設置

- ・学識経験者
- ・地元経済関係団体等で構成
- ・令和2年3月末迄に設立予定

賑わいの方向性について検討

- ・オープンスペースとして有効活用
- ・親水性に配慮した港湾空間の形成
- ・倉庫等の有効活用
- ・既存の周辺施設との役割分担
- ・観光客を呼び込む魅力ある空間 など

整備手法の立案(経済性、施工性)

- ・運河を最大限活用する方法
- ・運河を一部残しつつ埋立を行う方法
- ・埋立による方法



### ③坂出港が有する資源を活用した賑わい・交流拠点の創出に向けた今後の取組

- 坂出港をフィールドとして、坂出商工会議所による「坂出産業観光バスツアー」や坂出市による「企業訪問バスツアー」、さかいでっこガイド隊(※)による「みなと見学会」等が開催されている。 ※地元の小中学生で構成。
- 産業や瀬戸大橋等の資源を活用しつつNPOや関連企業等と連携して産業・文化ツアーや環境保全等の企画を行うと共に、交流・学習の機会の創出に取り組み、交流人口、定住人口の拡大を目指す。

#### 坂出港

##### 坂出商工会議所による産業観光ツアー



##### さかいでっこガイド隊によるみなと見学会



##### 坂出市による企業訪問バスツアー



##### 海辺を生かした環境保全



#### ■今後の取組

観光・産業等を活かしたツアーの充実、瀬戸大橋を活用した産業・文化ツアーの企画等に取り組む。

## ④ 坂出港及び瀬戸内海の魅力を活かしたクルーズ船誘致に向けた今後の取組

- 瀬戸内国際芸術祭2019（春会期）の最終日の5月26日、にっぽん丸が坂出港林田地区A号(-12m)岸壁に寄港。
- 坂出市内においては瀬戸内国際芸術祭の会場である沙弥島(しゃみじま)と海の幸ふれあい市場へ無料シャトルバスが運行され、約100人の乗客が沙弥島会場を訪れた。
- 今後、瀬戸内国際芸術祭の作品、瀬戸大橋登頂ツアーを組み合わせたツアー等の提案に取り組む。

### ■ にっぽん丸寄港状況（令和元年5月26日）



【ツアー日程】  
5/24(金)鹿児島発  
5/25(土)土佐清水  
5/26(日)坂出  
5/27(月)鹿児島着

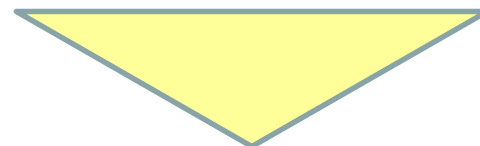
### ■ オプションツアーの行先（市内）



### ■ 中間とりまとめ以降の取組

#### ツアープランの立案

- ・クルーズ船寄港時に瀬戸内国際芸術祭と連携したツアーを実施
- ・瀬戸大橋主塔への登頂ツアーについて関係者と意見交換を実施



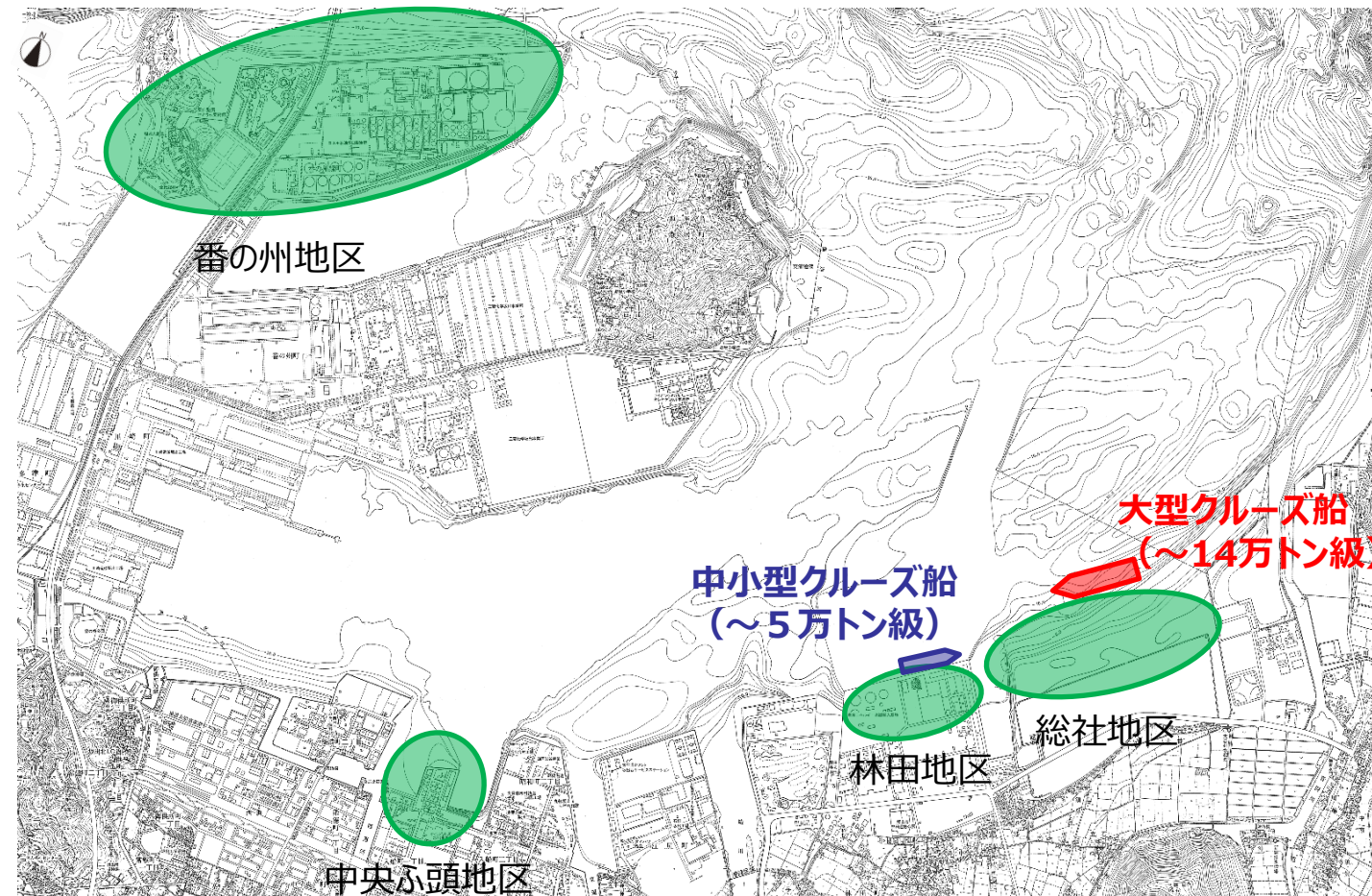
### ■ 今後の取組の方向性

- ・官民で協力して産業・文化・芸術など坂出市の観光資源を活かした産業・文化ツアー等のプランを提案
- ・「食」を通じた体験型ツアーの立案(例：塩+小麦→うどん)
- ・船社や旅行会社向けに積極的に官民一体となって提案していく



# (参考)坂出港におけるクルーズ船の受け入れ方策について

- 林田地区において5万トンクラスのクルーズ船の入港が可能。クルーズ船の受け入れに関しては、引き続き誘致を進めていく。また、官民が連携して産業・文化ツアーの充実や受入体制の改善(観光地へのアクセス手段の確立)等を図っていく。
- 番の州地区においても、既存施設を活用する上で法律上の規制等について確認や調整を行いつつ、既存施設の状況を踏まえ今後の利用方法について検討していく。
- 長期的には、総社地区において、大型のクルーズ船(14万トン級)の誘致を目指し、また、中心市街地から近い中央ふ頭地区においても、港湾利用者と協議しながら、受入れ可能な中小型クルーズ船(5万トン級)の誘致を検討していく。



## ■ 短期的に取り組む方策

- ・入出港時における歓迎方法の充実
- ・産業・文化ツアーの充実
- ・観光地へのアクセス手段の確立
- ・「食」に係るツアーの企画・提案
- ・岸壁の利用調整の円滑化
- ・制限区域内における安全性確保のための対策の実施
- ・番の州地区における受入体制についても検討を進める

## ■ 長期的に取り組む方策

- ・総社地区において14万トン級までのクルーズ船を誘致
- ・中央ふ頭地区において中小型クルーズ船を誘致



# ④ 坂出港及び瀬戸内海の魅力を活かしたクルーズ船誘致

- 現在、林田 A 号岸壁に「にっぽん丸」等のクルーズ船が寄港しているものの、当該岸壁は貨物船による利用が過密であるため、坂出港においてクルーズ船の受け入れを更に拡大するためには、他の施設を活用する必要がある。
- 坂出市の最大の観光資源の一つである瀬戸大橋の素晴らしい眺めや周辺の観光スポットを活かし、番の州地区へのクルーズ船寄港の可能性について、既存施設の活用等を含め、今後関係者と協議しながらクルーズ船受入方策を検討する。

## ■ クルーズ船受け入れに関する取組

## ■ 中間とりまとめ以降の取組

既存施設をクルーズ船の係留に活用する上で、法制度によってかかる制約等を確認したところ、明確に制限する記述は見当たらなかった。



ただし、確認した法制度は、本来、既存施設にクルーズ船の係留を想定したものではないため、活用を実現させるためには、関係省庁に確認する必要がある。



所有者の協力のもと、現地視察により既存施設の確認を行った。

## ■ 今後の取組

- ・既存施設の状況を踏まえ、今後の利用方法について検討する。
- ・バスの待機場所、CIQのテントなど、背後に十分な場所を確保することが可能か検討する。
- ・引き続き関係機関と協議しながらクルーズ船受入方策を検討する。

### ④ 坂出港及び瀬戸内海の魅力を生かしたクルーズ船誘致

・坂出市の最大の観光資源の一つである瀬戸大橋や周辺の観光スポットを活かし、将来的に多様なクルーズ需要に対応するため、番の州地区におけるクルーズ船受入方策について検討する。

既存施設

## ■ 既存施設の現況



延長約230mの連絡橋



桁下から水面まで約12m



一人が歩行できる歩廊幅

# ⑤ 四国の防災拠点港としての機能強化に向けた今後の取組

- 災害発生時には港湾を利用した緊急物資の輸送や危機管理対応等の優先業務を行いつつ、低下した物流機能を早期に回復させることが必要となることから、平成29年2月、L1津波に対応した「坂出港事業継続計画(坂出港BCP)」を策定した。
- 坂出港BCPにおいて、番の州地区はエネルギー拠点、西ふ頭地区は緊急物資輸送拠点として位置づけており、各拠点の役割を踏まえた訓練等を通じて防災拠点としての機能強化に取り組んでいく。平成30年の訓練では連絡体制の構築や関係機関の拡充を図っている。
- 緊急性のある東運河地区については、香川県地震・津波対策海岸堤防等整備計画に基づき、地震・津波対策を目的とし、海岸防災施設の整備を行う。

## ■ 坂出港事業継続計画の取組状況



### 坂出港BCP講演会 (H29.10.17)

- ・図上訓練の実施に先立ち、地震による津波被害などについての共通認識を図るため、香川大学金田講師による「津波による坂出港の被害について」講演会を開催。



### 坂出港BCP図上訓練 (H29.11.17)

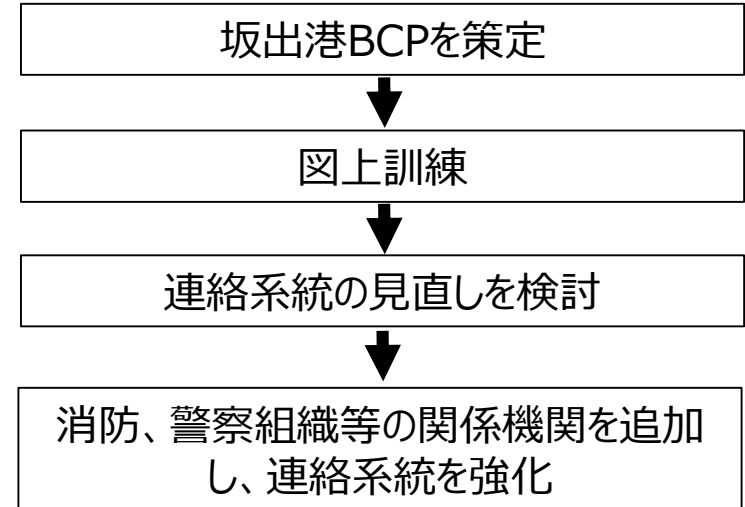
- ・坂出港BCPを今後検証していくために立場の異なる関係者間で共通認識を図るため、図上訓練を実施。



### 坂出港BCP図上訓練 (H30.12.26)

- ・様々な状況を想定した連絡体制の強化、消防や警察組織等の関係機関の拡充という見直しが必要との結論に至り、今年度見直し訓練を実施。

## ■ これまでの取組



## ■ 今後の取組

- ・実地訓練を計画し、更なる連絡体制の強化を図る。
- ・坂出港BCPの内容をブラッシュアップし、今後L2津波についても検討する。

L2津波：発生頻度は極めて低いものの、発生すれば甚大な被害をもたらす津波  
L1津波：最大クラスの津波に比べて発生頻度が高く、津波高は低いものの大きな被害をもたらす津波



# ⑥ 臨海部を有効活用した港湾空間の機能向上に向けた今後の取組

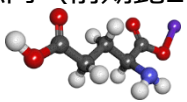
- 中讃地方のさぬき浜街道沿いには多くのモノづくり産業やこれに伴う技術力・人材が集積している。
- 四国のエネルギー拠点として、LNGやバイオマス等環境に配慮したエネルギー企業の集積を図る。
- 港湾機能の再編、市街地付近のウォーターフロントの創出、企業誘致など臨海部の有効活用を検討する。
- 臨海部における産業連携を促進するため、背後産業の高度化・活性化に資する空間の形成を図る。

## ■ 臨海部に集積する産業



### 四国化成工業 (株) 丸亀工場

タイヤの製造に不可欠な不溶性硫黄の世界シェア第2位。2019年3月期の設備投資を約35億円（前期比2.2倍）を増やし、更に生産効率を高める。



### 今治造船 (株) 丸亀事業本部

2017年に新ドックが完成。（投資額約400億円）西条工場とあわせ、世界最大級の大型コンテナ船を13隻建造予定。



### 三菱ケミカル (株) 香川事業所

年間390万トンの高品質コークス生産が可能な日本最大の「総合石炭化学工場」。

### 坂出LNG (株) 四国電力 (株) 坂出發電所

燃料を従来の石油からLNGへ転換する為に約700億円を投資。四国電力における火力発電所の総出力のうち、約4割を占める。



### 全農エネルギー (株) 坂出LPガス輸入基地

貯蔵能力13万トン誇る我が国有数の輸入基地。昭和58年より操業を開始し、四国を中心にローリー車、また、全国各地の沿岸基地等へは内航タンカーで輸送している。

### ■ さぬき浜街道沿いに多くの特定工場※が立地

※製造業、電気・ガス・熱供給業者（敷地面積9,000m<sup>2</sup>or建築面積3,000m<sup>2</sup>以上）



# 坂出港の課題及び目指すべき将来像

## 坂出港 の課題

- **港湾機能の強化**
- **臨海部の有効活用**
  - ・人口減少、高齢化が一層進展し、**製造業・運輸業等の坂出市産業の人手不足の懸念**
  - ・企業の生産性等の向上につながる**港湾の機能強化や臨海部の有効活用方策の検討が必要**
- **賑わい・交流拠点の創出**
  - ・物流・産業面での発展は、**市民に対しては「みなと」との距離を生じさせた可能性**
  - ・「**海辺で遊ぶような場所が少ない。**」、「**市内の観光地があまり知られていない**」といった指摘も。
- **クルーズ船誘致への対応**
  - ・瀬戸内海周辺港と比較して、**寄港回数が少ない。**
  - ・クルーズ旅客の消費を取り込む等、**クルーズ振興を通じた地域の活性化を図る必要。**
- **南海トラフ等大規模地震・津波への対応**
  - ・**南海トラフ地震の切迫性の増大**（今後30年以内に70～80%の確率で発生と予測）
- **港湾施設の老朽化対策**
  - ・主要な施設で建設後40年以上が経過するなど施設の**老朽化は着実に進展**

## 目指す 将来像

背後圏企業の成長を支える  
競争力・利便性の高い坂出港

環境に配慮した  
エネルギー拠点としての坂出港

市民が集い、クルーズ船や  
観光客を呼び込む魅力ある坂出港

大規模地震等に対応した  
安全・安心な坂出港

## 取組の 方向性

① 坂出港の物流機能強化に資する  
新たな定期航路の誘致

② 物流・生産拠点としての更なる港湾の  
機能強化に向けたふ頭の再編

③ 坂出港が有する資源を活用した  
賑わい・交流拠点の創出

④ 坂出港及び瀬戸内海の魅力を生かした  
クルーズ船誘致

⑤ 四国の防災拠点港としての機能強化

⑥ 臨海部を有効活用した  
港湾空間の機能向上

将来像の具現化のための推進体制

- ・ 近隣港湾との連携・役割分担
- ・ 坂出港の振興・発展を継続的に検討する組織の設置

# 坂出ニューポートプランの取組の方向性と具現化に向けた今後の取組内容

## 取組の方向性

① 坂出港の物流機能強化に資する新たな定期航路の誘致

② 物流・生産拠点としての更なる港湾の機能強化に向けたふ頭の再編

③ 坂出港が有する資源を活用した賑わい・交流拠点の創出

④ 坂出港及び瀬戸内海の魅力を生かしたクルーズ船誘致

⑤ 四国の防災拠点港としての機能強化

⑥ 臨海部を有効活用した港湾空間の機能向上

## 取組内容

- ・需要を整理し**船社へアプローチ**する。
- ・引き続き企業ヒアリングを実施し、**需要の掘り起こし**を行う。
- ・船社・荷主・運送業のマッチングをすべく、**意見交換会**を開催する。

- ・港湾管理者として**長期構想委員会**を設立し、**港湾計画の改訂**を目指す。

- ・観光・産業等を活かしたツアーの充実、瀬戸大橋を活用した**産業・文化ツアーの企画**等に取り組む。
- ・**賑わい空間創出検討ワーキング**を設置し、西運河地区の空間形成の方向性等を検討する。

- ・官民で協力して産業・文化・芸術など坂出市の観光資源を活かした**産業・文化ツアー等のプラン**を策定。
- ・**「食」を通じた体験型ツアーの立案**(例：塩+小麦→うどん)。
- ・上記プラン等を**船社や旅行会社向けに積極的に提案**。

- ・**実地訓練を計画**し、更なる**連絡体制の強化**を図る。
- ・坂出港BCPの内容をブラッシュアップし、**今後L2津波**についても検討する。

- ・四国のエネルギー拠点として、LNGやバイオマス等**環境に配慮したエネルギー企業の集積**を図る。
- ・港湾機能の再編にあたり、既存施設・遊休地の有効活用を検討し、**異業種間交流・研究開発拠点**等の背後産業の高度化・活性化に資する空間の形成を図る。

坂出港の発展と機能強化を実現するためのムーブメントとして、坂出港に関係するものと一体となり、坂出ニューポートプランの取組状況を点検・検証し、必要に応じて見直しを行うことが必要であることから、「未来の坂出港づくり懇談会(仮称)」を設置する。